

ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント

【上映と講演】戦前日本の映画検閲 —内務省 切除フィルムからみる—

お世話になっております。国立映画アーカイブでは、本年のユネスコ「世界視聴覚遺産の日」(10月27日)記念特別イベントを機に、1988年に寄贈された鳥羽幸信コレクションから、戦前日本の映画検閲で切除されたシーンの断片集を初公開します。

この切除フィルムは主に1925年から1939年に内務省警補局の検閲でカットされたフィルムと推定されます。本イベントでは、『日輪』(1925年、マキノ=聯合、衣笠貞之助)などすでに失われた日本映画から当時の観客すら見ることができなかった場面を、90年以上の時を経て初めてスクリーンに上映し、当時の映画検閲の制度や切除フィルムの資料的価値を講演をとおして考察します。

ユネスコ「世界の記憶」30周年にあたる本年、歴史的かつ文化的遺産である映画・映像のアーカイブや記録遺産を保護する活動への理解を深める機会である本イベントに、周知のご協力を賜りますと幸いです。



『日輪』(1925年、マキノ=聯合、衣笠貞之助)



『蓬萊島』(1925年、帝キネ、古海卓二)



『ジャングルの恋』(1939年、米、ジョージ・アーチェンバウド)



本イベントチラシ

ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント 【上映と講演】戦前日本の映画検閲—内務省 切除フィルムからみる—

2022年10月15日(土)1:00 pm- | 4:15 pm- *各回、上映(70分程)・講演(60分程)は同じ内容です。

【上映】

① 35mmフィルム(計35分)

「サイレント・カット場面集 邦画」(10分、16fps)1925~1927年頃の公開作の切除場面

「サイレント・カット場面集 洋画」(14分、16fps)1925~1928年頃の日本公開作の切除場面

「トーキー・カット場面集」(11分)1935年~1939年頃の日本公開作の洋画切除場面

② デジタル版(計35分) ※上記3本に、同定作品のタイトルを入れた版。

【講演】

加藤厚子「映画検閲再考—歴史資料としての切除フィルム—」

日本において、映画検閲は監督・脚本家など「検閲を受ける側」の回顧談を根拠に語られることが多かった。近年、検閲台本や公文書など歴史資料の分析に基づいた研究が進められているが、今回公開されるフィルムは、これまでの研究を大きく発展させる画期的な資料といえる。日本における映画検閲制度の変遷と、法規における映画検閲の位置づけをふまえながら、このフィルムの資料的価値を検討し、歴史資料としての意義を考える。

【講師】学習院女子大学非常勤講師。専門は日本近現代史(戦前・戦中の映画産業と映画統制)。著書に『総動員体制と映画』(新曜社、2003年)、復刻監修「社史で見る日本経済史」シリーズ(ゆまに書房、2015年)の他、論文多数あり。

会場:国立映画アーカイブ 小ホール

定員:151席(定員入替制、全席指定席)

主催:国立映画アーカイブ

料金:一般520円/高校・大学生・65歳以上310円/小・中学生100円/障害者(付添者は原則1名まで)・キャンパスメンバーズ無料

チケット:9月28日(水)10:00 amから公式チケットサイトでオンライン販売開始。

上映当日、残券がある場合のみ当館1階窓口にて各回開映1時間前から5分前まで、チケットを販売。

HP:<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/unesco2022/>